南幌町長 大 崎 貞 二 様

南幌町監査委員 白 倉 敏 美
南幌町監査委員 佐 藤 妙 子

令和3年度南幌町病院事業会計決算審査意見書

地方公営企業法（昭和27年法律第292号）第30条第2項の規定により、審査に付された令和3年度南幌町病院事業会計決算書について意見を次のとおり提出します。

記

1 審査の対象

令和3年度南幌町病院事業会計決算の事業報告書、事業決算書、財務諸表並びに決算書作成の基礎とする関係書類及び証拠書類などを対象にした。

- (1) 令和3年度南幌町病院事業決算報告書
- (2) 令和3年度南幌町病院事業損益計算書
- (3) 令和3年度南幌町病院事業貸借対照表
- (4) 令和3年度南幌町病院事業剰余金計算書
- (5) 令和3年度南幌町病院事業欠損金処理計算書
- (6) その他附属書類

2 審査の期間及び場所

- (1) 令和4年8月2日（1日間）
- (2) 町立南幌病院3階会議室

3 審査の手続き

町長より付された令和3年度南幌町病院事業会計の決算審査にあたって、南幌町監査基準に基づき、決算報告書、財務諸表及び附属書類が関係法令に基づき作成され、事業の経営成績及び財政状態を適正に表示しているか検証するため、担当職員から内容を聞き取るとともに、会計帳票、証拠書類との照合を行い、予算の適正かつ効率的に執行、運営がなされたかを検証して審査を実施した。

なお、千円単位で記載したものは四捨五入のため内訳と合計が一致しない場合がある。

4 審査の内容

(1) 業務の概要について

①入院・外来患者数

延患者数は、入院患者が 14,032 人と予算 13,870 人を 162 人上回り、達成率 101.2%、前年比 2,324 人、19.8%の増となった。

外来患者は 13,369 人と予算 14,026 人を△657 人下回り、達成率 95.3%となったが、前年比では 438 人、3.4%の増となった。

外来患者に含まれる訪問診療件数は延べ 588 人と前年度の 318 人に比べ 270 人、84.9% 上回った。医療連携による受診、転院、検査を含めた紹介件数は 152 件と前年度の 119 件に比べ 33 件、27.7%の増加、他院からの転院依頼件数は 102 件と前年度の 78 件に比べ 24 件、30.8%の増加、受入実績は 85 件と、前年度の 61 件に比べ 24 件、39.3%増加した。

合計では 27,401 人と予算延患者数 27,896 人に対し△495 人下回り、達成率 98.2%となった。

【表 1 患者数の動向】

(単位：人)

項 目	令 和 3 年 度					令和 2 年度		
	予 算	実 績	達成率	前 年 比		実 績	前年比 増減数	
				増減数	増減率			
入 院	一 般	13,870	14,032	101.2%	4,383	45.4%	9,649	4,476
	療 養	—	—	—	△2,059	皆減	2,059	△3,748
	小計	13,870	14,032	101.2%	2,324	19.8%	11,708	728
外 来	内 科	12,326	11,541	93.6%	126	1.1%	11,415	△540
	小児科	700	842	120.3%	288	52.0%	554	△485
	眼 科	1,000	986	98.6%	24	2.5%	962	△228
	小計	14,026	13,369	95.3%	438	3.4%	12,931	△1,253
合 計	27,896	27,401	98.2%	2,762	11.2%	24,639	△525	
内科患者数	26,196	25,573	97.6%	2,566	11.2%	23,007	368	

※入院患者は全て内科の患者

※令和 2 年 8 月より一般病床 60 床に転換

②診療科別延患者数

診療科別に延患者数を見ると、入院、外来を合わせて内科は 25,573 人と予算比△623 人、達成率 97.6%、前年比 2,566 人、11.2%増加した。

小児科は 842 人となり、前年比 288 人、52.0%増加した。眼科は 986 人、前年比 24 人、2.5%増加した。

③ 医業利益（医業収支）の状況と医業収支比率

本年度の医業収支を見ると収支差は赤字で△187,782 千円と前年比では赤字幅が57,358 千円減少した。

医業収益を医業費用で除した医業収支比率は、73.8%と11.0%改善した。医業収支比率は、医業に投下した費用を医業収益で収入した割合を示している。

医業費用は717,338 千円と前年比58,373 千円、8.9%増加したものの、医業収益が529,556 千円と、前年比115,731 千円、28.0%の増加であったことから、医業収支比率の改善につながった。

【表2 医業収支の推移】

(単位:千円)

項目	令和3年度		令和2年度		令和元年度		平成30年度
	収支差	前年増減	収支差	前年増減	収支差	前年増減	収支差
医業収支	△187,782	赤字減少 57,358	△245,140	赤字減少 67,087	△312,227	赤字増加 △16,958	△295,269
医業収支比率	73.8%	11.0%	62.8%	13.7%	49.1%	0.6%	48.5%

④ 年度別病床利用率の推移

町立南幌病院は令和2年8月に、一般病棟26床、療養病棟54床の合計80床から、一般病棟のみ60床へ病床数の削減と同年10月に病棟機能転換を行っている。

一般病棟の利用率は、本年度64.1%と前年度の54.4%を上回り、入院患者数は14,032人と4,383人、45.4%増加した。

病床利用率は医業収入の増減と経営収支に大きく影響し、町立南幌病院の収益確保に重要なことから、地域医療連携室を中心に関係機関との医療連携強化を行い、経営安定ラインの70%以上の病床利用率を確保することが重要である。

【表3 年度別病床利用率の推移】

(単位:床、%)

区分	令和3年度		令和2年度		令和元年度		平成30年度	
	実績	前年比	実績	前年比	実績	前年比	実績	前年比
利用率	64.1	16.0	48.1	10.6	37.5	1.5	36.0	△14.7
延病床数	21,900		24,340		29,280		29,200	

※令和2年度病床利用率（一般病棟54.4%、療養病棟31.3% 計48.1%）

⑤ 診療単価について

本年度の一人1日当たりの診療報酬は入院で22,104円と前年比749円、3.5%の増加、外来で9,045円と前年比1,952円、27.5%増加した。昨年度に病棟機能転換を行い、一人当たりの入院単価が上昇している。

外来では、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴うPCR検査や、診療単価の高い訪問診療の増加等により単価が上昇した。

(2) 収益的収支について

【表4 比較収支計算書】

(単位:千円、%)

科 目		令 和 3 年 度					令和2年度
		予算現額	決算額	達成率	増減額	増減率	実 績
医 業 収 益	入 院 収 益	305,140	310,164	101.6%	60,136	24.1%	250,028
	外 来 収 益	109,402	120,923	110.5%	29,201	31.8%	91,722
	そ の 他 医 業 収 益	94,236	98,469	104.5%	26,394	36.6%	72,075
	合 計	508,778	529,556	104.1%	115,731	28.0%	413,825
医 業 費 用	給 与 費	471,761	458,865	97.3%	28,883	6.7%	429,982
	材 料 費	47,085	40,055	85.1%	1,370	3.5%	38,685
	経 費	177,189	162,384	91.6%	12,008	8.0%	150,376
	減 価 償 却 費	52,613	52,604	100.0%	15,204	40.7%	37,400
	資 産 減 耗 費	3,300	3,121	94.6%	1,062	51.6%	2,059
	研 究 研 修 費	1,700	309	18.2%	△154	△33.3%	463
	合 計	753,648	717,338	95.2%	58,373	8.9%	658,965
医 業 利 益		△244,870	△187,782	76.7%	57,358	23.4%	△245,140
医 業 外 収 益	受取利息及び配当金	1	1	100.0%	0	0%	1
	患者外給食収益	1,280	1,198	93.6%	209	21.1%	989
	他会計負担金	15	15	100.0%	△4	△21.1%	19
	他会計繰入金	242,539	241,383	99.5%	△20,185	△7.7%	261,568
	その他医業外収益	6,065	6,285	103.6%	△2,389	△27.5%	8,674
	長期前受金戻入	19,759	19,750	100.0%	12,583	175.6%	7,167
	補助金	4,750	6,485	136.5%	△22,620	△77.7%	29,105
	合 計	274,409	275,117	100.3%	△32,406	△10.5%	307,523
医 業 外 費 用	支払利息及び企業債取扱諸費	47	21	44.7%	△6	△22.2%	27
	患者外給食費用	1,306	1,171	89.7%	438	59.8%	733
	雑 損 失	2,750	2,569	93.4%	1,323	106.2%	1,246
	合 計	4,103	3,761	91.7%	1,755	87.5%	2,006
経 常 利 益		25,436	83,574	—	23,197	38.4%	60,377
特 別 利 益		0	20	—	△14,980	△99.9%	15,000
特 別 損 失		1	0	—	△15,000	皆減	15,000
当 年 度 純 利 益		25,435	83,594	—	23,217	38.5%	60,377

医業収益は529,556千円と予算現額508,778千円に対し20,778千円、達成率104.1%、前年比115,731千円、28.0%の増収、うち入院収益は310,164千円と予算現額305,140千円に対し5,024千円、達成率101.6%、前年比60,136千円、24.1%増収した。

外来収益は120,923千円と予算現額109,402千円に対し11,521千円、達成率110.5%、前年比29,201千円、31.8%増収し、医業収益の8割を占める入院・外来収益は、予算現額414,542千円に対し431,087千円と16,545千円、達成率104.0%、前年度実績341,750千円に比べ89,337千円、26.1%の増収となった。

その他医業収益は98,469千円と予算現額94,236千円に対し4,233千円、達成率104.5%、前年比26,394千円、36.6%増加した。一般会計からの繰入普通交付税(救急告示分)36,294千円と特別交付税(小児救急医療提供病院)11,375千円は前年と同額となった。

医業費用合計717,338千円は予算現額比△36,310千円、達成率95.2%となったが、前年比58,373千円、8.9%増加している。

給与費は458,865千円と達成率97.3%、前年比28,883千円、6.7%増加した。新型コロナワクチン予防接種に伴う出張医師・看護師報酬のほか、法定福利費など医療体制確保の費用が増加したことによる。

材料費は40,055千円と達成率85.1%、予防接種や入院患者数の増加などに伴い前年比1,370千円、3.5%増加した。

経費は162,384千円と達成率91.6%、院内の施設機械等の修繕費、医療機器等保守点検・院内業務などの委託料や光熱水費、燃料費などの増加に伴い前年比12,008千円、8.0%増加した。

減価償却費は、医療機器等の取得により52,604千円と前年比15,204千円、40.7%増加、資産減耗費は医療機器更新等による資産の除去に2,608千円及び使用期限切れ等による薬品類の棚卸資産除去費513千円の支出により3,121千円と前年比1,062千円、51.6%増加した。

この結果、医業利益は2年連続して増収増費増益型の決算となり、予算現額△244,870千円に対し決算額△187,782千円と予算比57,088千円、前年度の△245,140千円に比べ57,358千円、23.4%改善している。

医業外収益275,117千円は予算現額に対し達成率100.3%、前年比△10.5%の減少となっている。うち他会計繰入金241,383千円の内訳は、普通交付税(病床分)55,825千円、特別交付税等100,885千円(不採算地区88,820千円、医師派遣分1,457千円、基礎年金拠出分10,108千円、改革プラン500千円)に加え、児童手当2,010千円、リハビリテーション医療に要する経費7,855千円、医師確保対策24,310千円、資金不足に伴う一般会計繰入金50,000千円、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金498千円を一般会計を經由して受入れ、前年比△20,185千円、7.7%の減少となった。長期前受金戻入19,750千円は、過去に一般会計等から受入れた補助金を収益に振替え、減価償却費の財源となっているもので、前年度の医療機器購入により前年比12,583千円、175.6%増加した。補助金は、前年度計上の病床機能再編支援に伴う補助金の減少に伴い、前年比△22,620千円、77.7%の減少となった。

医業外費用 3,761 千円は予算現額に対し△342 千円、達成率 91.7%、消費税納付分の増加により前年比 1,755 千円、87.5%増加した。

以上の結果、本年度の経常利益は 83,574 千円と前年比 23,197 千円改善した。

特別利益は、過年度請求戻入分 20 千円を計上し、当該年度純利益は 83,594 千円となった。

(3) 資本的収支について

【表5 資本的収支の明細】

(単位：千円)

区 分		令 和 3 年 度			令 和 2 年 度	令 和 元 年 度
		決 算 額	前 年 比			
			増減額	増減率		
収 入	出 資 金	21,748	△533	△2.4%	22,281	10,209
	繰 入 金	2,937	△75,828	△96.3%	78,765	3,240
	企 業 債	27,800	2,800	11.2%	25,000	8,700
	補 助 金	935	△1,810	△65.9%	2,745	0
	収 入 合 計	53,420	△75,371	△58.5%	128,791	22,149
支 出	建 設 改 良 費	31,799	△77,347	△70.9%	109,146	15,786
	企 業 債 償 還 金	32,620	△801	△2.4%	33,421	15,313
	支 出 合 計	64,419	△78,148	△54.8%	142,567	31,099
収 支 差		△10,999	2,777	20.2%	△13,776	△8,950

資本的支出では、無散瞳眼底カメラ 4,147 千円、自動血球計数CRP測定装置 2,970 千円、栄養給食管理システム 1,144 千円、電動リモートコントロールベッド 1,892 千円の購入、院内システム接続改修（医療機器）1,188 千円・（電子カルテ）1,265 千円、電話交換機及びナースコール更新 14,300 千円、屋外ロードヒーティングボイラー交換工事 2,618 千円の実施などの固定資産の取得に建設改良費として合計 31,799 千円及び企業債償還金 32,620 千円、合計 64,419 千円を支出している。

資本的収入は企業債発行 27,800 千円のほか、一般会計からの企業債償還元金相当額 21,748 千円を出資金として、一般会計を經由して新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金 2,937 千円、更に医療機器購入に伴う国庫補助金 935 千円を受入れ、合計 53,420 千円となった。

この結果、現金の出入りを伴う資本的収支差額は△10,999 千円となった。

これに当年度減価償却費 52,604 千円など現金支出の伴わない損益勘定留保資金を充てている。

(4) 財務について

本年度病院事業会計の財務規模は 940,389 千円と前年比 92,778 千円、10.9%増加している。

①資産の部（運用）

資産勘定では、固定資産は減価償却資産、減価償却累計額ともに減少しており、固定資産の正味残高は 626,748 千円と前年比△23,413 千円、3.6%減少した。

流動資産の 116,191 千円、58.8%の増加は、現金・預金が前年比 109,448 千円 91.5%と大幅に増加したため、これは、医業収益が改善していることが要因である。

【表 6 比較貸借対照表（資産）】

（単位：千円）

区 分		令和 3 年 度 末				令和 2 年 度	
		決 算 額	構 成 比	前 年 比		決 算 額	構 成 比
				増減額	増減率		
固 定 資 産	土 地	13,454	1.4%	0	0.0%	13,454	1.6%
	減価償却資産	1,960,918	208.5%	△20,358	△1.0%	1,981,276	233.7%
	減価償却累計額	△1,347,777	△143.3%	△3,055	0.2%	△1,344,722	△158.6%
	減価償却資産小計	613,141	65.2%	△23,413	△3.7%	636,554	75.1%
	無形固定資産	153	0.0%	0	0.0%	153	0.0%
	固定資産計	626,748	66.6%	△23,413	△3.6%	650,161	76.7%
流 動 資 産	現 金 ・ 預 金	229,116	24.4%	109,448	91.5%	119,668	14.1%
	未 収 金	82,911	8.8%	7,220	9.5%	75,691	8.9%
	貯 蔵 品	1,614	0.2%	△477	△22.8%	2,091	0.3%
	流動資産計	313,641	33.4%	116,191	58.8%	197,450	23.3%
資 産 合 計		940,389	100.0%	92,778	10.9%	847,611	100.0%

②有形固定資産の状況

本年度末の有形固定資産残高は土地を含め 1,974,372 千円と前年比△20,358 千円減少している。減価償却累計額 1,347,777 千円は前年比 3,055 千円の増加であり、年度末の減価償却資産に対する償却率は 68.3%となっている。

【表7 有形固定資産の明細】

(単位：千円)

区 分	令和2年度 末現在高	令和3年度末				
		増加額	減少額	年度末 現在高	減価償却 累計額	年度末償 却未済高
土 地	13,454			13,454	0	13,454
建 物	1,585,167	2,618		1,587,785	1,115,449	472,336
構 築 物	66,940			66,940	63,593	3,347
器械・備品	326,577	29,181	52,157	303,601	168,348	135,253
車 両	2,592			2,592	387	2,205
合 計	1,994,730	31,799	52,157	1,974,372	1,347,777	626,595

③負債・資本の部（調達）

負債勘定では、固定負債で新規に病院整備事業債27,800千円を発行したが、翌年度償還分34,823千円を流動負債の部に振替えたため、7,023千円減少した。

病院整備事業債は本年度に27,800千円を発行し、前年度末残高207,332千円（固定負債174,711千円、流動負債32,621千円）に対し32,621千円を償還して4,821千円減少し残高は202,511千円（固定負債167,688千円、流動負債34,823千円）となった。

流動負債は、負債について決算日の翌日から起算して1年以内支払分を流動負債、1年超支払分を固定負債に区分する1年会計基準により、令和4年度の償還予定額34,823千円を固定負債から振替え、企業債残高が34,823千円と2,202千円の増、未払金が49,634千円と3,229千円の増、職員手当に係る賞与引当金及び法定福利費引当金が29,274千円と3,410千円、13.2%増加したことから118,618千円と前年比10,337千円、9.5%増加した。

繰延収益は固定資産取得に伴い、過去に受け入れた一般会計等からの補助金19,750千円を長期前受金戻入に計上し減価償却費の財源に充て、新たに3,872千円の補助金を受け192,657千円と前年比△15,879千円、7.6%減少した。

資本の部では繰入資本金が1,074,033千円と一般会計から21,748千円の繰入れにより増加したほかに異動はなく、当年度純利益が83,594千円となったことから当年度末未処分利益剰余金（累積欠損金）は△740,126千円となり資本合計は461,426千円となった。

【表8 比較貸借対照表（調達）】

（単位：千円）

区 分		令 和 3 年 度 末				令和2年度末		
		決算額	構成比	前年比		決算額	構成比	
				増減額	増減率			
負 債 の 部	企業債	167,688	17.8%	△7,023	△4.0%	174,711	20.6%	
	固定負債合計	167,688	17.8%	△7,023	△4.0%	174,711	20.6%	
	流 動 負 債	企業債	34,823	3.7%	2,202	6.8%	32,621	3.8%
		未払金	49,634	5.3%	3,229	7.0%	46,405	5.5%
		諸引当金	29,274	3.1%	3,410	13.2%	25,864	3.1%
		その他流動負債	4,887	0.5%	1,496	44.1%	3,391	0.4%
		流動負債計	118,618	12.6%	10,337	9.5%	108,281	12.8%
	繰 延 収 益	長期前受金	611,881	65.1%	△3,848	△0.6%	615,729	72.6%
		長期前受金収益化累計額	△419,224	△44.6%	△12,031	△3.0%	△407,193	△48.0%
		繰延収益計	192,657	20.5%	△15,879	△7.6%	208,536	24.6%
負債合計	478,963	50.9%	△12,565	△2.6%	491,528	58.0%		
資 本 の 部	資 本 金	固有資本金	35,033	3.7%	0	0%	35,033	4.1%
		再評価組入資本金	1,885	0.2%	0	0%	1,885	0.2%
		繰入資本金	1,074,033	114.2%	21,749	2.1%	1,052,284	124.2%
		組入資本金	90,601	9.7%	0	0%	90,601	10.7%
		資本金計	1,201,552	127.8%	21,749	1.8%	1,179,803	139.2%
	剰 余 金	繰越利益剰余金	△823,720	△87.6%	60,377	6.8%	△884,097	△104.3%
		当年度純利益	83,594	8.9%	23,217	38.5%	60,377	7.1%
		剰余金計	△740,126	△78.7%	83,594	10.1%	△823,720	△97.2%
	資本合計	461,426	49.1%	105,343	29.6%	356,083	42.0%	
	負債・資本の部合計	940,389	100.0%	92,778	10.9%	847,611	100.0%	

5 審査の結果

（1）審査意見

令和2年度の審査意見でも触れたが、経営改善の根幹にかかわる部分であるため、あらためて振り返る。

前年度、一般病棟と療養病棟の2病棟80床から一般病棟のみの1病棟60床への病床機能の転換を行うとともに、訪問診療の充実、地域包括ケア病棟の導入とリハビリ体制の強化などの取り組み、電子カルテシステム導入による医療安全性の向上と業務の効率化の推進により「治す医療」から「治し支える医療」へと大きく舵を切り、持続可能な地域医療を追求するため、経営の安定化を目指した大きな改革を行った。

新型コロナウイルス感染症のまん延により受診控えも大きく影響を及ぼすなか、町立南幌病院の経営は病棟転換以前と比較して改善傾向にあるといえる。無論、前述のコロナ禍

による発熱外来患者へのPCR検査等の増加が外来収益を押し上げていることも一因であるが、外来収益における訪問診療の割合が増えていること、及び地域医療連携室の機能強化による入院患者の安定的な確保と、病棟機能転換の果実である患者一人当たりの入院単価の上昇が収益改善の大きな要因として挙げられる。結果、経営安定のため常態化していた一般会計からの繰入金は減少することとなったが、引き続き経営改善に努めることにより更なる繰入金の減少を目指していただきたい。

冒頭で振り返った取り組みは、いずれも病院経営の改善に欠かせないものだが、「治し支える医療」を実現するためには、地域に根差した医療を推し進めることが大切であり、この医療は地域の方たちが望むその人らしい生活を送るうえで、あくまでその人本位の医療を施すことであり、本人や家族の希望に寄り添った医療ケアを提供することである。

前年度において大きく改革を行ったが、その根底にある「地域の人を治し支え、その人らしい生活を支援する町立病院」であろうとする姿勢が、外来収益の2割ほどを占める訪問診療の値に表れており、地域の方からも支持されていると判断することができる。

また、コロナ禍において、家族との面会も満足にできない状況の中、患者とその家族の気持ちを和らげるため、家族からの要望を速やかに汲み取り、リモートによる面会を実施したことも患者とその家族の側に立った試みであるといえ、このような積み重ねが、地域の方との信頼関係を築いていくものと考えている。

結びに、今後においても病院経営の安定化を支える入院患者の確保に努めるとともに、訪問診療により患者本人や家族に寄り添う医療を推進し、町立南幌病院が目指す「治し支える医療」の実現に向け、院長をはじめ、病院職員が一丸となって取り組むことを強く望む。

(2) 審査意見の総括

令和3年度南幌町病院事業会計の決算報告書及び事業決算書並びに附属書類は関係諸帳表により検証した結果、それぞれ関係法令に基づいて作成され、その計数は適正に表示していると認められる。